

M10 わたしたちが良き地としてのキリストを所有するために、 見て経験する必要のある支配する原則					
キリスト の中で 歩く	I	すべてを含む霊の 中で…歩く	A-B	① <u>キリストの豊富を享受する</u> 、② <u>内住のその霊を享受する</u>	
			C	③ <u>霊にしたがって</u> 、また霊によって歩むことは <u>新約の中心</u> でありかぎです。	
	II	主と結合されて一 つ霊となる中で… 歩く	A-D (4)	① わたしたちの霊をもって礼拝する、② その霊である神から生まれる、③ <u>その霊は、わたしたちの霊と共に</u> 、④ わたしたちの霊が神の住まいとなる	
			E-H (4)	* <u>その霊は命を三部分からなる人の中へと分与する</u> ⑤ キリストはわたしたちの霊にいます、⑥ 神はその霊を通して命を与えます、⑦ その霊によって行ないを死に渡します、⑧ 思いを霊につける必要があります、	
			I-N (6)	<u>霊にしたがって、霊によって歩むことを訓練する</u> ⑨ その霊によって肉を十字架につけ、⑩ 霊によって歩くなら、肉の欲を満たさない、⑪ 霊によって生き、霊によって歩く、⑫ ミングリングされた霊の中で歩く、⑬ その霊の満ちあふれる供給によって、⑭ どんな時も霊の中で祈る	
			O-R (4)	<u>有機的な救いを経験する</u> ⑮ その霊の中で聖別される、⑯ 霊の中でその霊によって更新される、⑰ 主なる霊によって造り変えられる、⑱ 花嫁、霊的夫婦となって究極的に完成される	
	III	キリストの三つの時 期の満ち満ちた務 めにおけるキリス トの中で…歩く	A	聖書における神についての <u>漸進的な啓示の五段階</u>	
			B	主の回復とは、 <u>三つの時期の満ち満ちた務めにおけるキリストの回復</u> です	
	IV	からだ・キリストす なわち合併された 神の中で…歩く	A-C	<u>「あのキリスト」は団体的なキリスト、からだ・キリストです</u> ① キリストと肢体との合併、② 一人の偉大な人、すばらしい「わたし」、③ 合併された神の中で歩く	
			D-F	<u>からだ・キリストを受け入れ、その中で歩む</u> ① キリストは団体のからだです、② 重要なのは「キリスト化」の回復です、③ からだ・キリストを建造します	
	神の 臨在	V	主の臨在の中で… 歩く	A-B	<u>主の臨在によって支配を受ける</u> ① 主の直接の、直の臨在によって支配される ② 神の臨在は道(道路)であり、「地図」です
				C-D	③ <u>雲の柱、火の柱</u> として導く、 ③ <u>神の御使い</u> として導く
祭司の 務め	VI	祭司の体系の実際 の中で…歩く	A-B	<u>絶えずその霊に満たされ召会を建造する</u> ① 召会の豊かさのかぎであり、② 召会を建造する技巧	
			C	① <u>聖徒たちがみなうまずたゆまず祈る</u>	

題目	主要な聖書の言葉
見て経験する	創世記 13:15-17 「わたしは、あなたが <u>見ている</u> すべての地を、永遠にあなたとあなたの子孫に与える。……立って、その地を縦に横に歩き回りなさい。わたしがそれをあなたに与えるからだ」。
彼の中で歩く	コロサイ 2:6-7 それで、あなたがたはキリスト、主なるイエスを受け入れたのですから… <u>彼の中で歩きなさい</u> ローマ 8:4 「 <u>霊にしたがって歩く</u> わたしたちにおいて」 ガラテヤ 5:16「 <u>霊によって歩きなさい</u> 」 I コリ 6:17 「しかし、主に結合される者は、 <u>主と一つ霊になります</u> 」 I コリ 12:12「体のすべての肢体が多くあっても <u>一つ体</u> であるように、 <u>キリストも同様だからです</u> 」
神の臨在	出 33:13, 14 「ですから、今、わたしがあなたの目の中で恩恵を得ているなら、どうか今あなたの道を知らせてください。エホバは言われた、「 <u>わたしの臨在があなたと共に</u> 行って、わたしはあなたに安息を与える」」
祭司の務め	コロサイ 4:2 「 <u>うまずたゆまず祈り</u> 」

メッセージ 10

わたしたちが良き地としてのキリストを所有するために、 見て経験する必要がある支配する原則

聖書：コロサイ 2:6. I コリント 6:17. 12:12-13.

使徒 9:3-5. 出 13:21-22. コロサイ 4:2

I-II: 支配する原則——キリストの中で歩くとは、霊によって歩くことです

わたしたちは主の中で歩く必要があります。それは霊にしたがって、また実際の霊によって歩くことです。

I. 「それで、あなたがたはキリスト、主なるイエスを受け入れたのですから……彼の中で歩きなさい」
——コロサイ 2:6-7:

*キリストの中で歩くとは、彼の中で生き、行動し、振る舞い、存在して、彼のすべての豊富を享受することです。

A. わたしたちはキリストを受け入れたので、彼の中で歩くべきです。それは、イスラエルの子たちが良き地の中で生活して、そのすべての豊富な産物を享受したようにです。

*経験において、すべてを含む霊としてのキリストが、わたしたちの霊の中に住んで、わたしたちの享受となります——わたしたちは毎日、内住のその霊を享受します、

B. 今日の良き地は、すべてを含む霊としてのキリストです（ガラテヤ 3:14）。彼はわたしたちの霊の中に住んで（II テモテ 4:22. ローマ 8:16）、わたしたちの享受となっています。

*ですから、霊にしたがって、また霊によって歩くことは（ローマ 8:4. ガラテヤ 5:16）、新約における中心的で重要な点です。

C. 霊にしたがって、また霊によって歩くことは（ローマ 8:4. ガラテヤ 5:16）、新約における中心的で重要な点です。

わたしたちが霊にしたがって、また霊によって歩こうとするなら、「主に結合される者は、主と一つ霊」であることが霊的な交わりの重要な点であることを見なければなりません。

II. キリストの中で歩くために、すなわち、霊にしたがって、また良き地の実際としての霊によって歩くために、わたしたちが見なければならないことは、再生された三部分から成る信者と究極的に完成された三一の神との霊的な交わりのかぎが、I コリント第 6 章 17 節——「主に結合される者は、主と一つ霊になります」であるということです:

*A~B その霊は、わたしたちの霊と共に

A. わたしたちは、わたしたちの霊をもって霊なる神を礼拝します——ヨハネ 4:24。

B. わたしたちはその霊である神から再生されて、霊となりました——3:6。

C. その霊は、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子供たちであることを証ししてください——ローマ 8:16。

D. わたしたちは、わたしたちの霊の中にある神の住まいとなります。その霊はそこに住む方です——エペソ 2:22。

*E~H その霊がわたしたち三部分からなる人の中に分与されます

E. 主イエスは、霊なるキリストとして、また命を与える霊として、わたしたちの霊の中にいます（わたしたちの中で命を与えます）——II テモテ 4:22. ローマ 8:10。

F. イエスを死人の中から復活させた方の霊が、わたしたちの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、わたしたちの中に住んでいる彼の霊を通して、わたしたちの死ぬべき体にも命を与えてくださいます——11 節。

G. わたしたちがその霊によって体の行ないを死に渡すなら、わたしたちは生きます——13 節後半。

H. わたしたちは思いを霊に付けて、命と平安を得ます——6 節。

*I~N わたしたちは訓練する必要があります

I. キリスト・イエスのものである人たちは、（その霊によって）肉をその情と欲と共に十字架

につけてしまったのです——ガラテヤ 5:24。

- J. わたしたちは霊によって歩くとき、決して肉の欲を満たすことはありません——16 節。
- K. もしわたしたちが霊によって生きているならば、霊によって歩こうではありませんか——25 節。
- L. わたしたちは霊（ミングリングされた霊）の中で、また霊にしたがって歩いて（存在して）律法の義の要求を満たします——ローマ 8:4。
- M. わたしたちはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、キリストを生き、キリストを大きく表現します——ピリピ 1:19 後半-21 前半。
- N. わたしたちはどんな時にも霊の中で祈ります——エペソ 6:18。

***O~Rその霊を通して、神の有機的な救い経験し、新エルサレムにおいて究極的に完成する**

- O. わたしたちはその霊の中で聖別されます——ローマ 15:16。
- P. わたしたちは、わたしたちの霊の中のその霊によって更新されます——テトス 3:5. エペソ 4:23。
- Q. わたしたちは主なる霊によって、キリストの栄光のかたちへと造り変えられます——II コリント 3:18。
- R. 究極的に完成された三一の神としてのその霊と、造り変えられた三部分から成る人としての花嫁は、最終的に霊的夫婦、神性と人性のミングリングとなって（啓 22:17 前半）、究極的に完成された新エルサレムとなり、彼の永遠の拡大と表現となって、神聖な栄光が栄光化された人性において現されるようにします（21:10-11）。

III-IV: 神のエコノミーの完成のため、わたしたちはキリストの中で歩く必要があります

わたしたちは、キリストの彼の三つの時期の満ち満ちた務めが、神の永遠のエコノミーの完成のためであるので、わたしたちはキリストの中で歩く必要があることを知る必要があります

III. わたしたちが見る必要のある事は、わたしたちがその中で歩く方が、キリストの三つの時期の満ち満ちた務めにおけるキリストであるということです:

***神のエコノミーは聖書の中心的な啓示です: 手順を経た三一の神は、「独身の神」から、究極的に合併された神、新エルサレムにおいて究極的に完成されます。**

- A. 神の中心的な啓示は、聖書における神についての漸進的な啓示です。すなわち、「独身の神」、肉体と成った神、贖う神、複合の神、強化された神、内住する神、合併された神です。合併された神は、からだ・キリストであり、「結婚した」神、すなわち究極的に合併された神、新エルサレムにおいて究極的に完成されます。

神の斬新的な啓示の五段階

第一段階: 「独身の神」、創造の神(創世記 1:1)

第二段階: 肉体と成った神(ヨハネ 1:14、言は肉体と成った)

第三段階: 贖う神(ヨハネ 1:29 見よ、世の人の罪を取り除く神の小羊)、

第四段階: 複合の神、強化された神、内住の神(I コリント 15:45)

第五段階: 合併の神、それはからだ・キリストであり、「結婚した神」において究極的に完成される(啓 21:2 聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて)

***キリストの三つの時期の満ち満ちた務めにおいて神の永遠のエコノミーを完成する**

- B. 主の回復は、三つの時期 (肉体と成ること、包括、強化) の満ち満ちた務めにおけるキリストの回復です。主の回復とは、神が肉体と成り、肉体が命を与える霊と成り、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って、召会を建造し、召会がキリストのからだとなり、新エルサレムを究極的に完成するということです:

1. 「神が肉体と成り」とは、「独身の神」が肉体と成った神、贖う神となることです——ヨハネ 1:1, 14, 29。
2. 「肉体が命を与える霊と成り、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って」とは、複合の神が強化された神となって、内住する神となることです——I コリント 15:45 後半. 啓 1:4. 3:1. 4:5. 5:6。

3. 「建造された召会がキリストのからだとなり、新エルサレムを究極的に完成する」とは、合併された神、すなわち、からだ・キリストが、新エルサレムを究極的に完成することです。新エルサレムは、手順を経て究極的に完成された三一の神と、手順を経て究極的に完成された三部分から成る召会の究極の結合、ミングリング、合併です——ヨハネ 17:21。エペソ 4:4-6, 16。コロサイ 2:19。啓 19:7-9。21:2, 9-10。

また現在、彼は「あのキリスト」です。わたしたちは彼の中で、からだ・キリストの中で(召会生活の中で)歩くことで、神の建造を完成します

- IV. 主の現在の回復は、召会生活におけるからだ・キリスト(「あのキリスト」)の回復です。からだ・キリストは、合併された神です。こういうわけで、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストとしての彼の中で、すなわち合併された神の中で歩くことです——I コリント 12:12-13。使徒 9:4-5, 15。コロサイ 2:19。エペソ 4:1-6, 15-16。ヨハネ 14:23。17:21:

* I コリント 12:12 のキリストは、団体のキリストであり、それはキリストと彼のすべての肢体との合併です。

- A. I コリント第 12 章 12 節は言います、「それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、あのキリスト [直訳] も同様だからです」。この節の「あのキリスト」とは、個人のキリストではなく、団体のキリスト、すなわち彼のすべての肢体と合併されたキリストです。

*これは、パウロが悔い改めてキリストに立ち返った時に見た団体の「わたし」です。

- B. これは使徒パウロが征服されて悔い改めてキリストに立ち返った時に見た団体の「わたし」です。彼が見たのは、主イエスと彼の信者たちが一人の偉大な人、すなわち、すばらしい「わたし」であるということです——使徒 9:3-5。

*わたしたちは、からだ・キリスト、すなわち合併された神の中で歩くことを見る必要があります

- C. わたしたちが見る必要のある事は、わたしたちが今日その中で歩いているキリストが、個人のキリストであるだけでなく、すばらしい「わたし」、からだ・キリスト、すなわち合併された神であるということです。

*なぜなら、今日キリストは団体のからだです。団体のキリストの中で歩くことは、わたしたちのクリスチャン生活に大きな違いをもたらします。

- D. キリストを受け入れ、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストを受け入れ、その中で歩くことです。なぜなら、今日キリストは団体のからだであるからです。キリストはもはや個人のキリストであるだけでなく、団体のキリスト、すなわち、からだを伴うかしらです。団体のキリストの中で歩くことは、わたしたちのクリスチャン生活に大きな違いをもたらします。

*主の回復は、「キリスト化」を回復し、召会生活の中で、からだ・キリストの実際を得ることです

- E. 主の回復は「キリスト化」の回復、すなわち、純粋で完全なキリストのパーソンの回復であり、召会生活の中で、からだ・キリストの実際を得ることです——I テサロニケ 5:23。ピリピ 1:19-21 前半。3:8-14。II コリント 2:10。コロサイ 3:10-11。

*からだ・キリストの中で、キリストがわたしたちの中に造り込まれ、わたしたちもまた彼の中へと造り込まれ、キリストを表現して、神の建造を完成します。

- F. 今日、主は召会生活の中で、からだ・キリストを建造しています。からだ・キリストの中で、キリストは彼のすべての肢体の中へと造り込まれ、彼のすべての肢体は、命における成長と命における造り変えによって、彼の中へと造り込まれ、キリストを表現します——2:19。ローマ 12:2。II コリント 3:18。I コリント 12:12-13:

1. からだ・キリストの中で、わたしたちはキリストをすべてとして享受します——3 節後半、13 節。
2. からだ・キリストの中で、すべての肢体は機能します——14-22 節。
3. からだ・キリストの中で、肢体たちは三一の神の一において共にブレンディングされます——23-27 節。ヨハネ 17:21。エペソ 4:1-6。

ですから、わたしたちの生活と奉仕には、主の臨在があること、主の臨在がわたしたちにとってすべてであることが必要です。

V. 良き地の実際としてのすべてを含むキリストを所有し、彼の中で歩くために、わたしたちが見る必要のある事は、わたしたちが主の中で生活することにおいても、主の中で働くことにおいても、主の臨在がわたしたちにとってすべてであるということです。出エジプト記第 33 章 12 節から 17 節において、モーセは神と交渉して、神の臨在がモーセと共にまた神の民と共に行くように要求しました。神は応答して言いました、「わたしの臨在があなたと共に行って、わたしはあなたに安息を与える」——出 33:14:

***わたしたちは何をやるにしても、主の臨在によって支配される必要があります**

A. 主はわたしたちの中に生きておられ、わたしたちがどこに行っても、彼も行かれます。しかし、彼の臨在はわたしたちと共にいるのでしょうか？ 多くの時、主はわたしたちを助けるかもしれませんが、わたしたちに対して幸いでないかもしれません。わたしたちは、主の直接の、直の臨在によって支配される必要があります。

***なぜなら、神の臨在は道(道路)であり、「地図」です;これは支配する原則です。**

B. 主の臨在、笑顔は、わたしたちが良き地の実際としてのキリストの中へと入り、彼を所有するための支配する原則です。神の臨在は道であり、「地図」であり、彼の民が取るべき道を彼らに示します。

***雲の柱と火の柱の導きは、主の臨在を表徴します。神、御言、霊は一です。**

C. 出エジプト記の絵によれば、主の臨在は彼らの前に行き、「昼は雲の柱の中で彼らの道を導き、夜は火の柱の中で彼らに光を与えて、彼らが昼も夜も進んで行くことができるようにされた。昼は雲の柱、夜は火の柱が、民の前から離れ」ませんでした——出 13:21-22:

1. 予表において、雲はその霊を表徴し (I コリント 10:1-2)、照らすための火は神の御言を表徴します (詩 119:105. エレミヤ 23:29)。それゆえ、神の臨在からの即時的な生ける導きは、霊を通して、あるいは御言を通して来ます。
2. 二本の柱は神ご自身を象徴します。なぜなら、神は霊であり、また御言であるからです (ヨハネ 4:24. 1:1)。さらに、御言は霊でもあります (6:63. エペソ 6:17)。
3. こういうわけで、神、御言、霊は一であって、昼であれ夜であれ、絶えずわたしたちを導き案内します。クリスチャン生活に、昼と夜の違いはありません。なぜなら火の柱から発する光は、夜を昼にならせるからです。

***そして、神の使者としてのキリストが、神の民を導き、保護します。**

D. 出エジプト記がまたわたしたちに示している事は、キリストが神の御使いとして、民を導いていた方であったということです。神の御使いが行動したとき、柱も動きました。これが示していることは、御使いと柱が一であったということです。キリストと導く霊とは、分離することができません (出 14:19. ヨハネ 14:17-20. 16:13. II コリント 3:17. 啓 5:6)。さらに、主に従う者たちが反対に遭遇する時はいつも、導く光が自然に保護する光となります。しかしながら、この保護する光は反対者にとっては暗やみとなります (出 14:20)。

そして、うまずたゆまず祈ること(主の御名を呼び求め/主の言葉を祈り読みし/主の言葉を思い巡らすこと)を通して、霊の中で満たされ、神の住まいとしての召会を建造することができます。

VI. 良き地の実際としてのすべてを含むキリストを所有し、彼の中で歩くために、わたしたちは、わたしたちの生活と奉仕の中で多くの徹底的な祈りをすることによって、祭司の体系の実際の中で生活し、奉仕する必要があります——I ペテロ 2:5, 9. コロサイ 4:2:

***わたしたちは祈りを通してその霊で満たされる必要があります**

A. 召会が生き生きとしていて新鮮で豊富であるかどうかは、一つの事にかかっています。それは、わたしたちが絶えずその霊で満たされていることです。絶えずその霊で満たされるために、わたしたちは自発的で、空にされていて、祈っている人となる必要があります——コロサイ 4:2. ペリピ 2:13. マタイ 5:3, 8. ルカ 1:53. エペソ 5:18。

***なぜなら、神の霊で満たされることだけが、神の住まい(召会)を建造することができます。**

B. 召会を建造するという高貴な働きに対する知恵、理解、知識、技巧は、わたしたちにとって

その霊としての神ご自身でなければなりません。神の霊だけが、わたしたちを通してご自身の住まいを建造することができます——出 31:1-3. ゼカリヤ 4:6。

*このために、聖徒たちはみなうまずたゆまず祈り、キリストのパーソンの中で、主を享受し、彼の油塗りを経験する必要があります。

C. すべての召会のすべての聖徒がうまずたゆまず祈るなら、回復は大いに豊かにされ、引き上げられます。さらに、聖徒たちは主と、彼の臨在と、彼の即時的で、恒常的な油塗りとを享受するようになります。彼らは一日中、主の笑顔を楽しみ、キリストの生けるパーソンは彼らの経験また享受となります。

まとめ 彼の中で歩む	
ミングリングされた霊の中を生き、	霊によって、霊にしたがって行動する
からだ・キリストの中で生き、	召会生活へ入り、関心を持つ
主の臨在の支配を受け	言葉と霊の導きを受け入れる
いつもその霊で満たされ、	自発的で、空にされていて、祈る人となる

【参考】

MSG10 IV-A.

I コリント第12章12節は言います、「それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、**あのキリスト**[直訳]も同様だからです」。この節の「**あのキリスト**」とは、個人のキリストではなく、団体のキリスト、すなわち彼のすべての肢体と合併されたキリストです。

For even as the body is one and has many members, yet all the members of the body, being many, are one body, **so also is the Christ.**"

それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、**キリストも同様だからです**。

I コリント第12章12節後半		οὕτως καὶ ὁ Χριστός·		
ギリシャ語	οὕτως 副詞	καί 副詞	ὁ 定冠詞	Χριστός 名詞
英語 回復訳	so	also	the	Christ
日本語 回復訳	同様だから	も		キリスト
口語訳	同様だから	の場合も		キリスト
直訳	同様だから	も	あの	キリスト